海で活動する〝人〟をファクターに研究を

日本海洋人間学会が設立記念大会

「海に関わる人をファクターにした研究を」――を目的として、このほど日本海洋人間学会（会長・佐野裕司東京海洋大学教授）が設立され、9月22日、23日、東京・品川の東京海洋大学品川キャンパスで設立記念大会が開催された。「海で働く人、楽しむ人、競技する人、教育する人など、海で活動する人間をファクターに研究する場に」と、佐野教授は同学会の設立の目的を語る。同学会の概要と記念大会の内容を紹介しよう。

幅広い分野で連携

学問の進歩普及と安全確保

日本海洋人間学会（JAPAN・SOCIETY・FOR・MARITIME・ACTIVITY＝略称・JSMTA）は、海で活動する人々にまつわる学問の進歩普及を図り、わが国の学術の発展に寄与することを目的として、今年4月設立された。その内容は「海浜・海上・海中などでの労働、マリンスポーツやレジャー、競技、また、海を利用しての教育など、さまざまな海洋環境で活動を行う人たちに対しての健康の維持増進、安全の確保、競技力向上、海を通じてのより良い教育プログラムの提供を目指した人間と海洋に関わる学理及びその応用についての研究発表、様々な活動現場での情報や知識の交換、会員相互及び内外の関連団体との連携協力等を行う」としている。

9月22日、23日には東京海洋大学品川校舎において第1回大会（設立記念大会）を開催。第1回総会（設立総会）を行い、東京海洋大学の佐野裕司教授が初代会長に就任した。その他の役員は、副会長に神田一郎氏（独立行政法人航海訓練所）、松下雅雄氏（鹿屋体育大学）、常務理事に千足耕一氏（東京海洋大学）と理事11名、監事2名、事務局長1名で、事務局を東京海洋大学品川キャンパス内におくことを決めた。

佐野教授は設立の意図や今後について次のように語った。

「私はもともと医学博士で、健康予防医学が専門。東京海洋大で海との縁ができ『船員と船酔い』の研究なども手がけた。しかし、こうした研究を発表したくても適当な学会がない。航海学会は運航技術の研究が中心だ。一方海洋性レクリエーションもマリンスポーツも同様で、体育学会や野外教育学会などでは陸上が主になる。そこで海に特化し、人間をファクターに集めた学会があったらいいと思った。

海では、働く人、楽しむ人、競技する人、また教育する人もいる。海洋環境で活動する人たちが抱える問題や課題を学術的に研究する。同じ「海」といっても海運と水産、スポーツ、レジャーと幅広い分野があり、お互いのことも知らない部分が多い。知識や情報を交換し、連携協力することで学問の進歩普及が進み、安全の確保にもつながっていく。さらにそれぞれの分野で行っている『教育』をもう一つのキーワードとして共通の研究ができればおもしろい。

学会誌は発行が決まっており、あとは会員数をもう少し増やして、なるべく早く学術団体として登録したい。さらに学会内に専門研究会も作っていきたいと考えている」

設立記念大会では、同学会賛同者である東京海洋大学の岡本信明学長が「日本海洋人間学会への期待」と題して特別講演を行った。その後、船の安全や水辺の活動、漁業の安全など三つのテーマでシンポジウムが行われたほか、研究発表も行われた。

シンポジウムの内容は次の通り。

シンポジウム1「船と安全」

司会・國枝佳明（航海訓練所航海科長）

シンポジスト　▽漆谷伸介（運輸安全委員会）「船舶の事故再発防止に向けて」▽阪根晴彦（航海訓練所　安全推進室室長）「航海訓練所における安全対策」▽七呂光雄（全日本船舶職員協会理事・事務局長）「船内における安全対策」

シンポジウム2「水辺活動と安全に関する取り組み」

司会・千足耕一（東京海洋大学大学院）

シンポジスト　▽進藤哲也（国立青少年教育振興機構）「水辺の体験活動における安全講習会の報告」▽遠藤卓男（ウオーターセーフティーニッポン）「水の事故ゼロ運動の全国展開により水の事故を1件でも減らす」▽海野義明（オーシャンファミリー海洋自然体験センター代表理事）「海に学ぶ体験活動協議会等市民活動における安全への取り組み」

シンポジウム3「漁業と安全」

司会・武田誠一（東京海洋大学大学院）

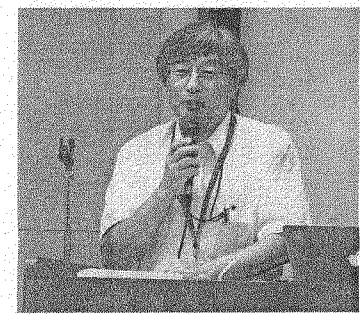
シンポジスト　▽久宗周二（高崎経済大学）「漁業における労働安全の取組」▽高橋秀行（水産工学研究所）「漁船における作業評価と改善」▽佐伯公康（同）「漁港における労働安全の現状と課題」

この中で「船と安全」では、運輸安全委員会の沿革や事故調査の流れなど事故の再発防止のための取り組みが、航海訓練所は「海王丸」の海難事故を契機に設置された「安全推進室」の紹介と安全対策、さらに船の現場から、船内における安全への取り組みの現状と今後の課題が発表された。いずれのシンポジウム、研究発表とも、参加した会員たちは大きな関心をよせ、意義深い第1回の大会となった。また第1日目には懇親会も行われ、互いに親睦を深めた。

同学会は現在、学生会員、賛助会員も含めて会員数は81名。今後の主な事業として①学会大会における発表や報告、講演会等②学会誌の発行③研究の奨励および研究業績等の表彰④内外の関連団体等との連絡および協力⑤その他――。ホームページも開設しており、学会誌の発行はWEB上で行うとしている。

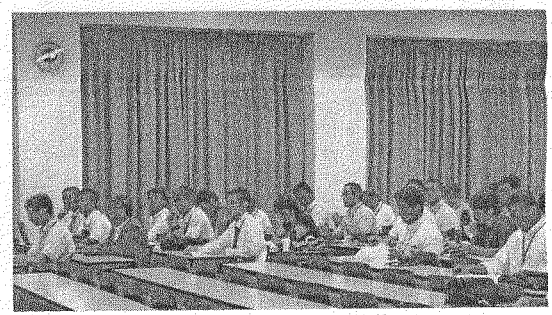
★日本海洋人間学会

▽住所　〒108・8477　東京都港区港南4の5の7東京海洋大学内「日本海洋人間学会事務局」▽TEL&FAX　03・5463・4276▽URL　http://www.jsmta.jp



佐野裕司会長

「船の安全」テーマにシンポジウムも



大きな感心を集めた第１回日本海洋人間学会